

フェスティバルホール



所在地：大阪府大阪市北区中之島二丁目
建築面積：約5,900㎡
客席数：2,700席
舞台間口：30m、高さ：12.6m
設計・監理：株式会社 日建設計
施工：株式会社 竹中工務店
リニューアルオープン：平成25年4月

S238

世界が認める優れた音響特性を持つ、大阪のフェスティバルホールが、4年間の休業期間を経て、2代目フェスティバルホールとして新スタート。舞台照明設備も、旧ホールで培った品質を継承し、さらなる進化を遂げました。

関西に愛され、世界が絶賛する『天井から音が降る』ホール

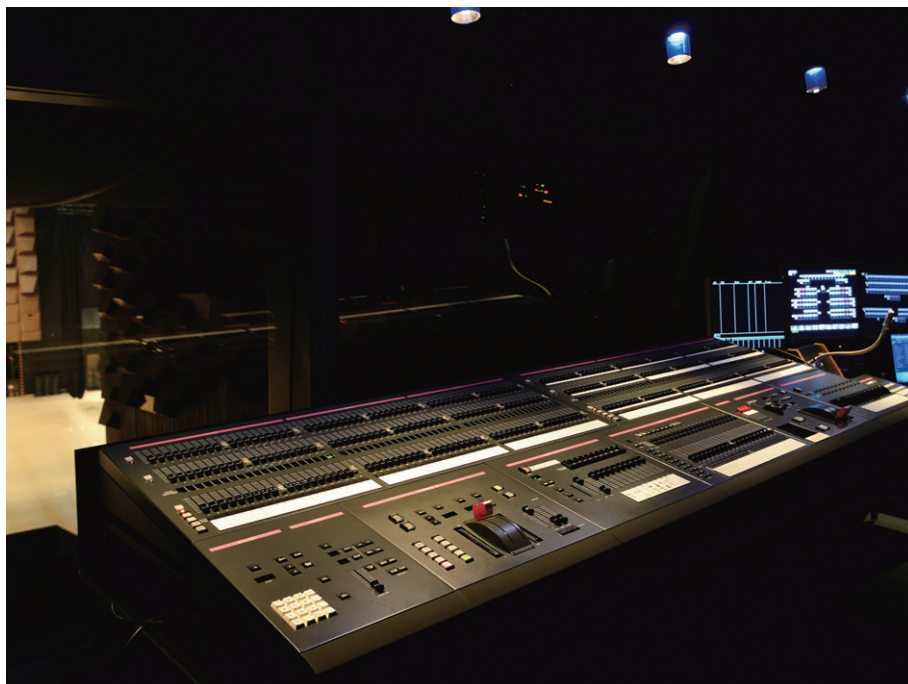
1958年、大阪・中之島に誕生したフェスティバルホールは、トップアーティストからも絶賛される世界有数のホールです。2008年に一時閉館し、「進化」と「継承」をコンセプトに、旧ホールをしのぐ風格と最新の機能を備えた2代目フェスティバルホールとして生まれ変わりました。舞台照明設備も、旧ホールで認められた高い品質と技術力、優れた操作性が継承され、さらなる進化を遂げています。

最新の演出空間にふさわしい先進の調光システム

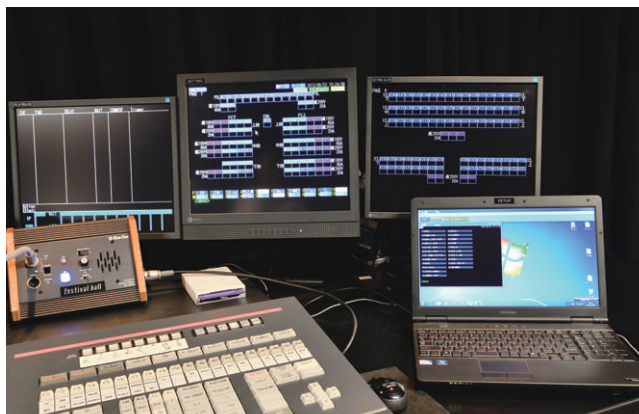
舞台照明設備は、旧ホールと比べ2倍の受電容量（約1000kVA）・調光回路数（約600回路）に拡充。調光制御チャンネル数も、2倍となる2048チャンネルへ拡大し、大規模な照明演出にも十分に対応可能となっています。

調光操作卓は、必要に応じてユニットのレイアウトを自由に変更できるLICSTAR-IV Type Sを導入。旧ホールで長年愛用されてきたLICSTAR-IV Type Hの操作性を継承しながら、主要スペックの拡大と高機能化を実現。マルチキュー再生やムーブフェイド再生、マクロスイッチ機能なども備え、あらゆる公演に対応可能な仕様としています。調光制御システムは、独立した3系統のイーサネットによって構築され、1系統は基幹となる調光設備専用、他の2系統は持込機器での使用や冗長化を目的としています。さらにそのうち1系統はノードを介してDMX信号へ変換され、照明ボタンやシーリング、フロントサイド、ギャラリー等の各照明拠点に分配されています。この照明拠点に持込機器を接続することでホール内のさまざまな場所から照明を操作することも、DMX信号を使用する機器を接続してイーサネットにリンクさせることも可能です。

また、1階客席および2階客席の天井には、LEDダウンライトを採用。大天井に採用されたハロゲンダウンライトと色合いを調和させるため、現地での綿密なテストを行い、最適な色温度（2250K）に調整。ハロゲン器具同様のなめらかな調光（0～100%）を可能にしています。



機能別にユニット化された調光操作卓 LICSTAR-IV Type S



調光操作卓ディスプレイ部（中央のディスプレイはタッチパネル式）



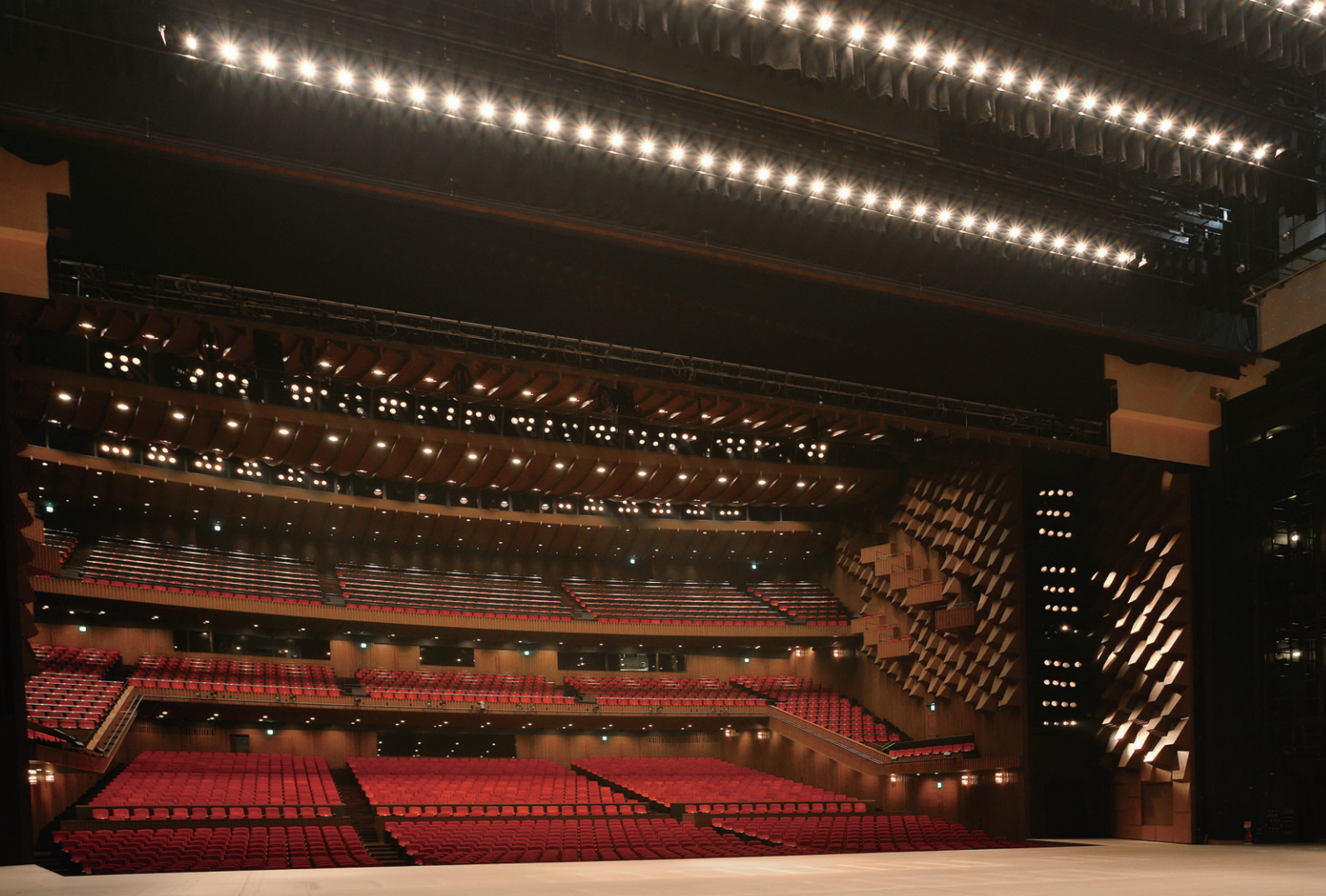
持込照明用電源盤（舞台奥）



イーサネット盤（舞台スノコ）



イーサネット盤（客席天井）



ホール内景



インテリジェント形調光器盤 (DIMSTAR-III)



調光盤室内



音響効果を高めた舞台 (音響反射板ライトはハロゲン器具)

主な照明器具一覧

設置場所	機 器 名	形 名	台数	備 考
照明操作室	調光操作卓	LICSTAR-IV Type S	1式	【ユニット構成】 プレイバックユニット ×1台 (メモリー再生用)、プレイバックユニットP×1台 (手動再生用)、セッティングユニット×1台、セッティング・エフェクトユニット×1台、サブマスターユニット (20本) ×1台、プリセットフェーダユニット (60本) ×2台、パート/ミキシングユニット (10本) ×1台、ハウスライト/フリーユニット (10本) ×1台
調光盤室	インテリジェント形調光器盤	DIMSTAR-III、他	1式	調光主幹盤×3面、調光分岐盤×3面、調光器盤 (イサネット盤含む) ×7面、他
照明操作室、調光盤室、客席天井、舞台スノコ、他	イサネット盤	—	4面	スイッチングHUB、ノード、DMXスプリッタ
1階客席天井	LEDダウンライト	LEDD-70007FL-LD9 (改)	89台	LED 消費電力: 約14W
2階客席天井	LEDダウンライト	LEDD-70007FL-LD9 (改)	61台	LED 消費電力: 約14W